

音楽リズム指導における保母の資質 についての一考察

北 沢 房 子

1. 序 論

幼児は、素晴らしい感覚の持ち主である。自分に最も適した表現方法で動き、生活に必要な種々の活動をごく単純に、あそびの中で行なっている。そして諸活動は、運動機能を著しく発達させると共に、大脳を刺激し、知的分野の発達をも促すものである。

幼児は、自ら好んで活動するものであるが、その活動を触発し、活発にしていく為には、放っておいては育たない。一定の環境条件が備わって、はじめて可能になってくる。環境の中には、いろいろな要素が考えられるが、幼児教育においては、保母の関わり方が、環境条件の中では、特筆すべき条件ではないだろうか。保母が、幼児をどれくらい理解しようとし、意欲を持って臨んでいるか。諸活動を、広く深い活動にまで高められるかを決定する要因になってくると言っても過言ではない。

そこで保母は、^{注1}幼児の音楽リズム指導に際して、どんな資質を持っていたらよいのか。保母養成校の学生に、意識調査をし、現場での保育経験者との比較も併せて行ない、保母養成校として、今後の音楽リズムの授業への、一つの手懸りとしたい。

2. 調査の手順

本調査では、幼児の音楽リズム指導における保母の資質についての意識調査を行ない、よりよい保育者養成の為、又養成校における、今後の音楽リズムの授業への手懸りを得る為に、本学学生、1年119名（昭和56年4月入学生）、2年102名（昭和55年4月入学生）、実際に現場で、指導にあたっている保母、およびかつて、そのような経験のある者54名を対象に、昭和56年（1981）12月下旬～57年（1982）1月上旬にかけ、アンケート調査を実施した。

調査は、質問紙法（択多選択法）で、16項目（内容としては、保母としての一般的な観点からのもの、保母としての専門的な観点からの項目を入れた。）のうち、幼児の音楽リズム指導に際して、必要と思われる項目5つに○印をつける。以上の調査結果を比較検討することを、主な手順とした。

3. 調査結果

アンケート調査の結果、表1、表2、表3、表4、図1、表5のような結果が出た。

表1 音楽リズム指導に必要な保育者の資質

項 目	学 年		1 年 年		2 年 年		保育経験者	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1 ピアノがよく弾ける			29	24.6	17	16.7	20	37.0
2 性格が明るく素直である			59	50.0	36	35.3	18	33.3
3 声がきれいで幼児に正しく歌わせることができる			7	5.9	4	3.9	5	9.3
4 何か1つ得意な楽器がある			10	8.5	28	27.5	14	25.9
5 基本ステップがきちんとでき表現のテクニックが豊かである			73	61.9	43	42.2	15	27.8
6 全体的な見通しができる			45	38.1	28	27.5	22	40.7
7 遊戯を沢山知っている			17	14.4	11	10.8	1	1.9
8 音楽が好きである			41	34.7	51	50.0	35	64.8
9 たえず問題意識を持っている			24	20.3	17	16.7	16	29.6
10 リズムを敏感に深く感ずることができる			45	38.1	49	48.0	16	29.6
11 新しいリズムの創造性を持っている			37	31.4	24	23.5	11	20.4
12 音楽理論がしっかりしている			0	0	1	1.0	3	5.6
13 正しい言葉づかいで語りかけができる			13	11.0	9	8.8	4	7.4
14 幼児の発達段階を理解している			74	62.8	72	70.5	33	61.1
15 イメージづけが上手である			54	45.8	48	47.1	19	35.2
16 幼児との心のつながりを大切にする			62	52.5	72	70.5	38	70.4
合 計			590	500	510	500	270	500

表2 1年生対象の音楽リズム指導に必要な保育者の資質順位

項目 順位	項 目
1位	14 幼児の発達段階を理解している
2位	5 基本ステップがきちんとでき表現のテクニックが豊かである
3位	16 幼児との心のつながりを大切にする
4位	2 性格が明るく素直である
5位	15 イメージづけが上手である
6位	6 全体的な見通しができる
7位	10 リズムを敏感に深く感ずることができる
8位	8 音楽が好きである
9位	11 新しいリズムの創造性を持っている
10位	1 ピアノがよく弾ける
11位	9 たえず問題意識をもっている
12位	7 遊戯を沢山知っている
13位	13 正しい言葉づかいで語りかけができる
14位	4 何か1つ得意な楽器がある
15位	3 声がきれいで幼児に正しく歌わせることができる
16位	12 音楽理論がしっかりしている

表3 2年生対象の音楽リズム指導に必要な保母の資質順位

項目 順位	項 目
1位	14 幼児の発達段階を理解している
2位	16 幼児との心のつながりを大切にする
3位	8 音楽が好きである
4位	10 リズムを敏感に深く感ずることができる
5位	15 イメージづけが上手である
6位	5 基本ステップがきちんとでき表現のテクニックが豊かである
7位	2 性格が明るく素直である
8位	11 新しいリズムの創造性を持っている
9位	4 何か1つ得意な楽器がある
10位	6 全体的な見通しができる
11位	1 ピアノが上手に弾ける
12位	9 たえず問題意識を持っている
13位	7 遊戯を沢山知っている
14位	13 正しい言葉づかいで語りかけができる
15位	3 声がきれいで幼児に正しく歌わせることができる
16位	12 音楽理論がしっかりしている

表4 保育経験者対象の音楽リズム指導に必要な保母の資質順位

項目 順位	項 目
1位	16 幼児との心のつながりを大切にする
2位	8 音楽が好きである
3位	14 幼児の発達段階を理解している
4位	6 全体的な見通しができる
5位	1 ピアノがよく弾ける
6位	15 イメージづけが上手である
7位	2 性格が明るく素直である
8位	9 たえず問題意識を持っている
9位	10 リズムを敏感に深く感ずることができる
10位	5 基本ステップがきちんとでき表現のテクニックが豊かである
11位	4 何か1つ得意な楽器がある
12位	11 新しいリズムの創造性を持っている
13位	3 声がきれいで幼児に正しく歌わせることができる
14位	13 正しい言葉づかいで語りかけができる
15位	12 音楽理論がしっかりしている
16位	7 遊戯を沢山知っている

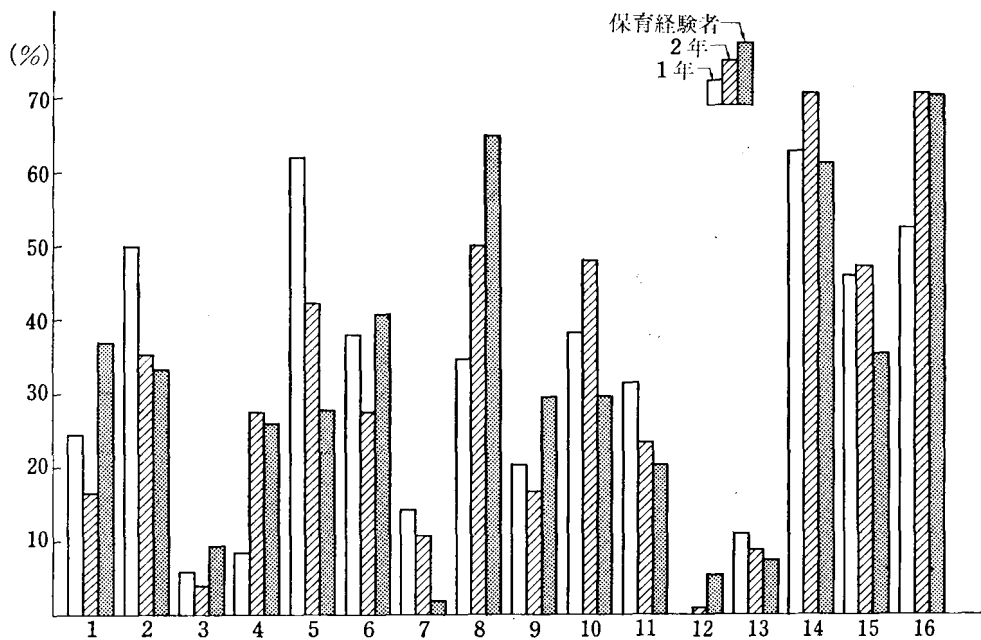


図1 1年, 2年, 保育経験者における音楽リズム指導に必要な資質の比較

表5 各項目に対する, 各グループ間の有意差

学年 項目	1年—2年	2年—保育経験者	1年—保育経験者
1	有	有	有
2	有	なし	有
3	なし	なし	なし
4	有	なし	有
5	有	有	有
6	有	有	なし
7	なし	有	有
8	有	有	有
9	なし	有	なし
10	有	有	なし
11	なし	なし	有
12	なし	有	有
13	なし	なし	なし
14	なし	なし	なし
15	なし	有	なし
16	有	なし	有

4. 結果の分析と考察

本調査では、幼児の音楽リズム指導における保母の資質についての意識調査をし、保母養成校における、今後の学生指導の手懸りを得る為に、本学学生、保育経験者にアンケート調査を実施し、その結果を比較検討した。

まずⅠとし全体的な傾向を検討し、Ⅱとして情報量基準^{注2}（A I C）により、本学学生 1 年、2 年、および保育経験者それぞれの間で、統計学的にみて意味のある差が有るか、無いかを調べ考察してみたい。

Ⅰ 全体的傾向

1 年、2 年、および保育経験者が、それぞれ保母の資質として必要と考えているもの上位 5 位までは、以下の通りである。

- | | | |
|-----|-----|-----------------------------|
| 1 年 | 1 位 | 幼児の発達段階を理解している |
| | 2 位 | 基本ステップがきちんとでき表現のテクニックが豊かである |
| | 3 位 | 幼児との心のつながりを大切にする |
| | 4 位 | 性格が明るく素直である |
| | 5 位 | イメージづけが上手である |
| 2 年 | 1 位 | 幼児の発達段階を理解している |
| | 2 位 | 幼児との心のつながりを大切にする |
| | 3 位 | 音楽が好きである |
| | 4 位 | リズムを敏感に深く感ずることができる |
| | 5 位 | イメージづけが上手である |
| 保 育 | 1 位 | 幼児との心のつながりを大切にする |
| 経験者 | 2 位 | 音楽が好きである |
| | 3 位 | 幼児の発達段階を理解している |
| | 4 位 | 全体的な見通しができる |
| | 5 位 | ピアノがよく弾ける |

1 年においては「基本ステップがきちんとでき表現のテクニックが豊かである」2 年においては、「音楽が好きである」において、予想外の結果が出た。それらについて考察してみたい。

1 年生は、入学以来、基本ステップ、幼児体操、遊戯、フォークダンス、リトミックといろいろな分野の勉強をし、はやく基本ステップがきちんとでき、表現力が豊かになりたいという願望が結果として表われてきたのであろう。

次に「音楽が好きである」について。

保育経験者では 2 位、2 年では 3 位に上がっている。幼児教育と音楽は切り離せない関係にあり、音楽を愛する純粋な気持ちからスタートし、前向きに力強く進んでもらいたい。

Ⅱ 情報量基準（A I C）による考察

「ピアノがよく弾ける」について

保育経験者5位，1年10位，2年11位という結果が出た。保育経験者は，体験をとうしピアノの重要性を認識し，切実に訴えているのに反し，学生達はあまり高い評価をしていない。という結果が出たということは問題である。学生の日常生活をみていると，ピアノ練習に費す時間は多い。それが喜んで練習する場合は，問題ないが，毎週のレッスンに追われ，せっぱつまった状態で練習しているのが実状ではないだろうか。ピアノだけが楽器ではない。いざとなれば，どんな楽器でも指導は可能である…という意識が学生間にはあると考えられる。そのことにちがいはないが，現場からの声，要求を通してみるとピアノの示す存在価値は非常に大きい。

「幼児の発達段階を理解している」について

1・2年共1位，保育経験者3位という結果がでた。教育実践の場では，まず幼児を理解するには，その発達発達段階を理解していなければならない。その意味でも，専門教養はもちろん，一般教養等，広く豊かな知識を持っていなければならない。

「幼児との心のつながりを大切にする」について

保育経験者1位，2年2位，1年3位という結果がでた。保育の場では，画一化された一斉指導の形態をとることが多いが，そういう形では，個々の細部にまで行き届かないのが実状である。指導においては支配的でなく，個々それぞれに応じた，ありのままの姿で，愛情と誠実さをもって幼児と共に歩む姿勢が必要である。

「性格が明るく素直である」について

1年4位，2年，保育経験者共に7位，という結果がでた。これは保母としての基本的条件で，心持ちが明るく，はきはきした人は，その場の状況をよく把握できる。周囲の人にも快い感じと信頼感を与え，情緒を安定させるものである。又素直であるということは，ありのままに従順，柔軟性のある考え方等要求され，これも幼児のみならず，保護者等とのかかわりにおいても円満に事がはこぶものである。特に1年にその傾向の強く出たことは喜ばしいことで，理想を高くかけこのフレッシュな気持ちを忘れず頑張ってもらいたい。

「イメージづけが上手である」について

1年45.8%，2年47.1%，保育経験者35.2%と三者共より必要な資質として上がってきているが，保育経験者において，学生より若干少なかったのは，イメージづけというものを単なる保育技術とみた結果であろう。イメージづけの上手な人とは，物の本質をつかむ目が的確で早いこと，をいうであろうし，新しい素材を未来に向って創り出すことのできる人を指すのである。

「音楽理論がしっかりしている」について

1年0%，2年1%，保育経験者5.6%であった。本学では音楽リズムの内容を動きのリズムを中心に（音楽とは別に）考えているので，この調査では，下位にきた。しっかりした音楽理論を持ち，事を理論的に解釈，判断していくことも保育の中では必要なことである。

「リズムを敏感に深く感ずることができる」について
1年38.1%，2年48%，保育経験者29.6%という結果がでた。
保育の中での敏感さは，たえず要求されることである。一般的に保母に対しては，技術的なものを求める以前に人格的なもの，そして幼児を正しく理解する為の感覚的な敏感さ，反応的確さをも併せて望んでいるのであろう。

5. 結 語

音楽リズム指導における保母の望ましい資質とは、「幼児との心のつながりを大切にする」、「音楽が好きである」、「幼児の発達段階を理解している」、「全体的な見通しができる」、「ピアノがよく弾ける」以上の資質を保母が持っていることである。特にここでは，ピアノ等技術的分野にも意欲的に臨むことの必要性を訴えているのが，印象的であった。

養成校側においては，この調査結果をふまえ，学生を励まししながら，いろいろにバリエーションできるような課題，そしてその方向づけ等の配慮が必要である。

注1 幼稚園教諭，保育所保母，施設保母を含めた総称

注2 鈴木義一郎著「比較」統計学のすすめ 講談社ブルバックス版により検定した。

参 考 文 献

- 。「比較」統計学のすすめ 鈴木義一郎著 講談社